

来年の11月19日から23日まで、火山都市国際会議がアジアで初めて島原市で開催されます。一体どんな会議なのでしょう。

また、日本や世界には雲仙岳をはじめ多くの火山があり、その近くでたくさんの人々が暮らしています。

今月から火山都市国際会議の内容と世界のいろんな火山について紹介していきます。

なぜ島原で国際会議？

火山都市国際会議（シティーズ・オン・ボルケーノーズ）は、人間と火山の共生について火山学だけでなく、さまざまな関係者が世界中から集い話し合う国際会議で、一九九八年に始まりました。

島原開催は、平成二年から始まった噴火とそれに続く災害を克服し見事に復興したことが評価され、今年一月のエクアドル大会で選ばれたものです。

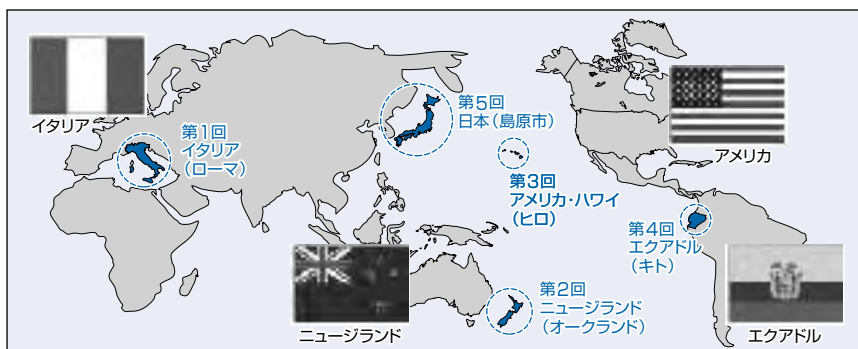
島原はもとより、日本の火山に関する教訓と情報を世界に発信し意見交換することは大変意義ある重要なことです。私たちのまちを舞台に「火山と共に生きる都市（まち）づくり」をアピールする絶好の機会です。

これまでの開催地

島原大会は第五回目ですがこれまででは世界のどこで開催されたのでしょうか。

第一回はイタリアのローマ。第二回はニュージーランドのオークランド。第三回はアメリカ・ハワイのヒロ。第四回は

エクアドルのキトです。世界地図で確認してみましょう。



島原の会場は？

島原大会は、島原復興アリーナと雲仙岳災害記念館を主会場に開催されます。

次回は、会議のプログラムを紹介します。

松島健博士と行く

世界の火山めぐり

（一）西日本の活火山

地球誕生以来、地下の熱いマグマが地表に噴出してできる「火山」は数えきれないほど噴火してきました。

世界では現在でも千五百余りの活動的な火山「活火山」が見つかっており、日本には百八の活火山が登録されています。

日本の火山の分布は千島・北海道から東日本、伊豆マリアナ諸島に連なる火山列と、九州・沖縄に連なる火山列に分けることができます。それぞれ、太平洋プレート、フィリピン海プレートと呼ばれる岩盤が地下に沈み込み、熱で融けてマグマとなつて地上に出てきたものです。その中でも九州は阿蘇山や桜島（始良カルデラ）が常時活発な活動を続けており、霧島火

山群・諏訪の瀬島なども噴火が頻繁です。

雲仙岳は火山としての活動度は低いものの、一九九〇年から九五五年までの噴火では、火砕流による四十四名の犠牲者、また約二百年前の眉山崩壊では約一万五千人の犠牲者を出すなど災害が多い火山として有名です。

（執筆：松島健九州大学地
震火山観測センター助教授・
理学博士）

